

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 19 年 3 月 1 日 13 時 30 分 ~ 15 時 00 分)

注意事項

1. 試験問題の数は 50 問で解答時間は正味 1 時間 30 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。
  - (1) 各問題には a から e までの五つの答えがあるので、そのうち質問に適した答えを(例 1)では一つ、(例 2)では二つ選び答案用紙に記入すること。

(例 1) 101 県庁所在地は  
どれか。

- a. 栃木市
- b. 川崎市
- c. 神戸市
- d. 倉敷市
- e. 別府市

(例 2) 102 県庁所在地はどれか。  
2 つ選べ。

- a. 宇都宮市
- b. 川崎市
- c. 神戸市
- d. 倉敷市
- e. 別府市

(例 1) の正解は「c」であるから答案用紙の **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
101	(a)	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

(例 2) の正解は「a」と「c」であるから答案用紙の **(a)** と **(c)** をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

102	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
102	●	(b)	●	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

102	102
(a)	●
(b)	(b)
(c)	→ ●
(d)	(d)
(e)	(e)

- (2) ア. (例 1) の質問には二つ以上解答した場合は誤りとする。
- イ. (例 2) の質問には一つ又は三つ以上解答した場合は誤りとする。

問題 1 上斜筋減弱術が適応となるのはどれか。

- a. Benedikt 症候群
- b. Brown 症候群
- c. Duane 症候群
- d. Möbius 症候群
- e. Tolosa-Hunt 症候群

問題 2 麻痺性斜視の治療で適切な手術方法はどれか。2つ選べ。

- a. 後藤法
- b. 原田-伊藤法
- c. Anderson 法
- d. Jensen 法
- e. Kestenbaum 法

問題 3 両内直筋後転術が適応でないのはどれか。

- a. 急性内斜視
- b. 屈折性調節性内斜視
- c. 周期性内斜視
- d. 乳児内斜視
- e. 部分調節性内斜視

問題 4 内方偏位  $8\Delta$ 、上方偏位  $6\Delta$  を中和するプリズム量とプリズム基底方向の組合せで正しいのはどれか。

- a.  $9\Delta$  ——— 耳側上方
- b.  $10\Delta$  ——— 耳側下方
- c.  $11\Delta$  ——— 耳側上方
- d.  $12\Delta$  ——— 耳側下方
- e.  $13\Delta$  ——— 耳側上方

問題 5 プリズム療法が適応でないのはどれか。

- a. 調節性内斜視
- b. 外転神経麻痺
- c. 偏心固視弱視
- d. 眼位性眼振
- e. 乳児内斜視

問題 6 眼位に影響する薬物はどれか。

- a. 塩酸オキシプロカイン
- b. 硫酸アトロピン
- c. デキサメサゾン
- d. ゲンタマイシン
- e. アセタゾラミド

問題 7 膜プリズムを用いた複視の治療で正しいのはどれか。

- a. 最大斜視角相当を貼る。
- b. 回旋複視では斜めに貼る。
- c. 背理性複視では2枚貼る。
- d. 眼鏡レンズの顔面側に貼る。
- e. 同側性複視では基底内方に貼る。

問題 8 外斜視の治療で正しいのはどれか。

- a. 輻湊訓練
- b. 内直筋後転術
- c. 基底外方プリズム
- d. 優位眼への塩酸ピロカルピン点眼
- e. 優位眼への硫酸アトロピン点眼

問題 9 我が国でボツリヌス治療の対象とされているのはどれか。2つ選べ。

- a. 痙性斜頸
- b. 甲状腺眼症
- c. 乳児内斜視
- d. 外転神経麻痺
- e. 片側顔面けいれん

問題10 調節性内斜視の治療に用いる点眼薬はどれか。

- a. エチルセルロース
- b. 塩酸オキシブプロカイン
- c. 塩酸フェニレフリン
- d. 臭化ジスチグミン
- e. 硫酸アトロピン

問題11 視能矯正を行っても両眼視機能を獲得しにくいのはどれか。

- a. 不同視弱視
- b. 調節性内斜視
- c. 外眼筋単筋麻痺
- d. 形態覚遮断弱視
- e. 輻湊不全の間欠性外斜視

問題12 融像訓練で誤っているのはどれか。

- a. 異常融像がある場合は網膜対応異常の矯正訓練を行う。
- b. 潜伏融像がある場合は積極的に視能矯正訓練を行う。
- c. 融像欠損がある場合は動的両眼網膜刺激法を行う。
- d. 部分融像がある場合は融像側方移動訓練を行う。
- e. 融像衰弱がある場合は分離結合訓練を行う。

問題13 赤フィルタを用いる視能訓練はどれか。

- a. 出し入れ法
- b. 融像幅増強訓練
- c. 動的両眼網膜刺激法
- d. flashing 法
- e. Pemberton 法

問題14 疾患(病態)と治療の組合せで正しいのはどれか。

- a. Duane 症候群 ———— 下斜筋切除術
- b. 外転神経麻痺 ———— 上斜筋移動術
- c. 間欠性外斜視 ———— 内直筋後転術
- d. 交代性上斜位 ———— 下斜筋前方移動術
- e. 上斜筋麻痺 ———— 外直筋後転術

問題15 正しいのはどれか。

- a. 遠見ペナリゼーションは弱視眼を完全矯正する。
- b. 遠見ペナリゼーションは健眼へ硫酸アトロピン点眼を行う。
- c. 近見ペナリゼーションは弱視眼へ $-3D$ の低矯正を行う。
- d. 近見ペナリゼーションは健眼へ $+3D$ の過矯正を行う。
- e. 全ペナリゼーションは両眼へ硫酸アトロピン点眼を行う。

問題16 遠視性屈折異常弱視児が眼鏡を外すと内斜視になる。

考えられるのはどれか。

- a. 開散麻痺
- b. 外転神経麻痺
- c. 重症筋無力症
- d. 調節性内斜視
- e. 交代性上斜位

問題17 弱視が両眼に発症し得るのはどれか。2つ選べ。

- a. 斜視弱視
- b. 不同視弱視
- c. 屈折異常弱視
- d. 微小斜視弱視
- e. 形態覚遮断弱視

問題18 同側性複視が遠見時で著明となり、近見時に消失するのはどれか。

- a. 開散麻痺
- b. 核間麻痺
- c. 輻湊麻痺
- d. 内直筋麻痺
- e. 滑車神経麻痺

問題19 眼球牽引試験で陰性となるのはどれか。

- a. 固定斜視
- b. 甲状腺眼症
- c. 動眼神経麻痺
- d. 上斜筋腱鞘症候群
- e. 眼窩吹き抜け骨折

問題20 心因性視覚障害(心因性視能障害)で誤っているのはどれか。

- a. 瞳孔不同
- b. 近見障害
- c. 色覚異常
- d. 視力低下
- e. 求心性視野狭窄

問題21 病的眼振はどれか。2つ選べ。

- a. 潜伏眼振
- b. 前庭眼振
- c. 眼位性眼振
- d. 終末位眼振
- e. 視運動性眼振

問題22 顎下げが考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a. A型外斜視
- b. A型内斜視
- c. V型外斜視
- d. V型内斜視
- e. 両眼瞼下垂

問題23 輻湊不全型間欠性外斜視の視能訓練でないのはどれか。

- a. 輻湊訓練
- b. 抑制除去訓練
- c. 単眼固視訓練
- d. 凹レンズの使用
- e. 生理的複視訓練

問題24 二重焦点レンズの処方が適応となる内斜視はどれか。

- a. 遠見斜視角 = 近見斜視角
- b. 遠見斜視角 > 近見斜視角
- c. 遠見斜視角 < 近見斜視角
- d. 上方視斜視角 > 下方視斜視角
- e. 上方視斜視角 < 下方視斜視角

問題25 大型弱視鏡による自覚的斜視角検査で左右眼のスライド図形が同時に見えな  
い場合、大型弱視鏡による訓練法はどれか。2つ選べ。

- a. 交差法
- b. 追跡訓練
- c. 出し入れ訓練
- d. Pemberton 法
- e. 動的両眼網膜刺激法

問題26 間欠性斜視の抑制除去訓練として生理的複視訓練を行った。眼前 30 cm に  
はペンライト A、5 m には固視灯 B がある。

誤っているのはどれか。

- a. 交差性生理的複視利用法は両眼耳側網膜が刺激される。
- b. A も B も光が2つずつ見える場合は眼位ずれがある。
- c. A も B も光が1つだけ見える場合は融像している。
- d. 棒読書器は生理的複視の原理を利用している。
- e. 同側性生理的複視利用法は A を固視させる。

問題27 医師の具体的指示を要するのはどれか。

- a. 調節検査
- b. 視力検査
- c. 色覚検査
- d. 網膜電図検査
- e. 両眼視機能検査



問題28 流行性角結膜炎で正しいのはどれか。

- a. 飛沫感染である。
- b. 煮沸消毒は感染防止に無効である。
- c. 手洗いは感染防止に有効である。
- d. 第2種学校伝染病に指定されている。
- e. 法律上、一類感染症に規定されている。

問題29 一次救命措置でないのはどれか。

- a. 人工呼吸
- b. 気管内挿管
- c. 119番通報
- d. 心臓マッサージ
- e. 自動体外式除細動器(AED)の使用

問題30 遠用の視覚補助具はどれか。

- a. 単眼鏡
- b. 卓上型拡大鏡
- c. タイポスコープ
- d. 手持ち式拡大鏡
- e. ハイパワープラスレンズ眼鏡

問題31 58歳の男性。突然の視力障害を主訴に来院した。視力は右1.0(矯正不能)、左0.5(矯正不能)。左眼の眼底写真(別冊No. 1A)と左眼の視野検査の結果(別冊No. 1B)とを別に示す。

考えられる視野異常はどれか。

- a. ①
- b. ②
- c. ③
- d. ④
- e. ⑤

別冊  
No. 1 写真A、図B①～⑤

問題32 30歳の男性。不同視を以下の眼鏡で矯正されている。

右： $+2.00\text{ D} \ominus \text{cyl} -3.00\text{ D Ax } 90^\circ$

左： $-2.00\text{ D} \ominus \text{cyl} -2.00\text{ D Ax } 90^\circ$

眼鏡レンズの光学中心から10mm下方を通して近方視するとき、プリズム効果によって上下方向の複視を訴えている。

対応で誤っているのはどれか。

- a. 角膜の屈折矯正手術で矯正する。
- b. コンタクトレンズで矯正する。
- c. 左眼レンズの加工によりプリズム効果を減少させる。
- d. 眼鏡レンズの光学中心を両眼とも5mm下げる。
- e. 眼鏡レンズの光学中心間距離を瞳孔間距離よりも大きくする。

問題33 10歳の男児。角膜頂点を基準に調節遠点と調節近点を測定すると、それぞれ、眼後方20 cmと眼前20 cmである。

誤っているのはどれか。

- a. 屈折度は遠視である。
- b. 調節力は10 Dである。
- c. 眼鏡での矯正度数は+5.00 Dである。
- d. CL矯正では近点位置は眼前10 cmとなる。
- e. CL矯正よりも眼鏡矯正の方が近方調節時の負担が大きい。

問題34 60歳の男性。片眼の白内障のため水晶体摘出術を受けた。術後の遠点は角膜面から後方85 mmである。

この無水晶体眼の矯正で不等像の影響が最も少ないのはどれか。

- a. 角膜上で+11.75 Dのコンタクトレンズ
- b. +10.00 Dで頂間距離15 mmの眼鏡レンズ
- c. 眼前115 mmで+5.00 Dの手持ちレンズ
- d. 眼前250 mmで+3.00 Dの手持ちレンズ
- e. 眼前415 mmに+2.00 Dの手持ちレンズ

問題35 20歳の女性。コンタクトレンズの処方を希望して来院した。ハードコンタクトレンズ(BC 8.10/P +5.50/S 8.8)を処方したところ、フィッティング検査ではベースカーブが0.10 mmフラットで、適正矯正の追加屈折値は-0.75 Dである。

ベースカーブが8.00 mmの場合の適切なレンズ屈折力はどれか。

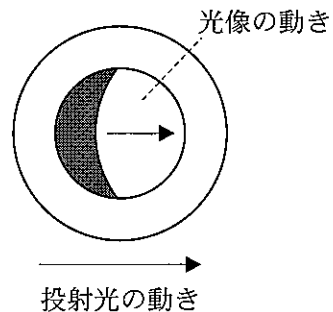
ただし、BC: base curve、P: power、S: sizeである。

- a. +3.75 D
- b. +4.25 D
- c. +4.75 D
- d. +5.25 D
- e. +5.75 D

問題36 開散光を用いて 50 cm の距離で検影したとき得られる所見を図に示す。

考えられるのはどれか。2つ選べ。

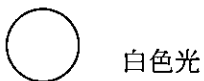
- a. 5 D の近視
- b. 3 D の近視
- c. 2 D の近視
- d. 正 視
- e. 1 D の遠視



問題37 50 歳の女性。複視を自覚して来院した。左眼に赤フィルタを置いたとき、光を患者から見た状態を図に示す。

考えられる眼位はどれか。

- a. 右眼外上斜視
- b. 右眼外下斜視
- c. 右眼内上斜視
- d. 左眼内下斜視
- e. 左眼内上斜視



問題38 78歳の男性。眼球運動障害を主訴に来院した。右方注視麻痺と左方への共同偏視とを認める。

障害部位はどれか。

- a. 右前頭眼野
- b. 右傍正中橋網様体
- c. 右内側縦束
- d. 右動眼神経核
- e. 左外転神経核

問題39 8歳の女兒。完全屈折矯正下の遠見眼位が $2\Delta$ の内斜位で、 $-2D$ のレンズを負荷した遠見眼位が $20\Delta$ の内斜視である。

AC/A比( $\Delta/D$ )はどれか。

- a. 2
- b. 4
- c. 6
- d. 9
- e. 11

問題40 4歳の女兒。遠見眼位は $2\Delta$ の内斜位、近見眼位は $22\Delta$ の内斜視である。

考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a. 乳児内斜視
- b. V型内斜視
- c. 後天基礎型内斜視
- d. 非屈折性調節性内斜視
- e. 非調節性輻湊過多型内斜視

問題41 21歳の男性。視力低下を主訴に来院した。右眼視力は0.3(0.6×-2.50 D  
○cyl -5.25 D Ax 120°)。ケラトスコープ測定結果に基づく角膜トポグラフィ  
(角膜表面各地点での曲率半径をもとに計算した角膜屈折力の分布を地図状に表示  
したもの)(別冊No. 2)を別に示す。

適切な視力の矯正方法はどれか。

- a. 眼内レンズ
- b. プリズムレンズ
- c. 多焦点眼鏡レンズ
- d. ソフトコンタクトレンズ
- e. ハードコンタクトレンズ

別 冊 No. 2 写 真
------------------

問題42 65歳の男性。眼位の矯正を目的に来院した。5方向の眼位写真(別冊No. 3)  
を別に示す。

考えられるのはどれか。2つ選べ。

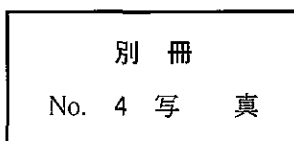
- a. 輻湊けいれん
- b. 開散麻痺
- c. 右固定内斜視
- d. 右眼窩内壁骨折
- e. 右外転神経麻痺

別 冊 No. 3 写 真
------------------

問題43 60歳の男性。3日前からの右方視での複視を主訴に来院した。輻湊は正常である。5方向の眼位写真(別冊No. 4)を別に示す。

病変部位はどれか。

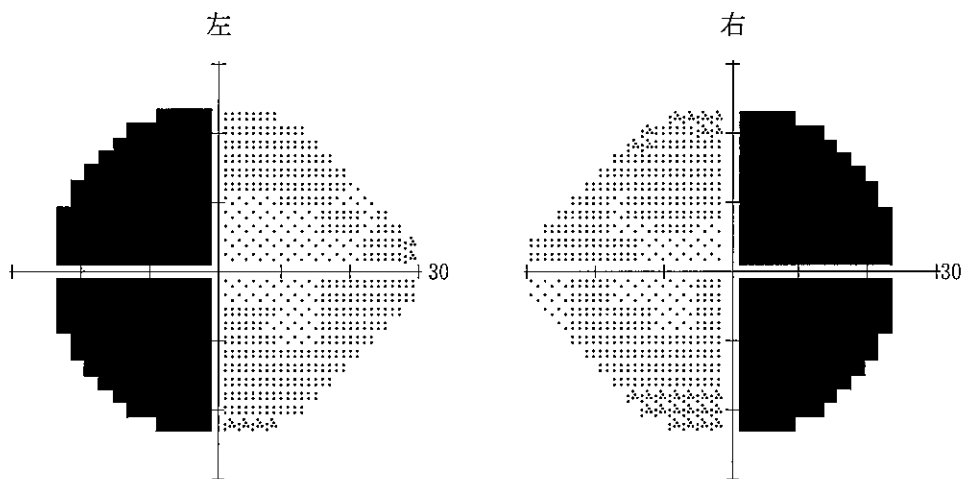
- a. 動眼神経
- b. 滑車神経
- c. 外転神経
- d. 内側縦束
- e. 傍正中橋網様体



問題44 52歳の女性。人によくぶつかるため来院した。視力、前眼部および眼底に異常はない。静的視野検査の結果を図に示す。

障害部位はどれか。

- a. 視神経
- b. 視交叉
- c. 外側膝状体
- d. 視放線
- e. 後頭葉視覚領





次の文を読み、問題 45、問題 46 の問いに答えよ。

7歳の男児。就学時の検査で左眼視力低下を指摘され来院した。生後3か月から眼が外方に常に偏位していた。視力は右1.0( $1.0 \times +0.50\text{D}$ )、左0.1( $0.5 \times +5.25\text{D}$ )である。眼球運動障害はない。

問題45 この患児で考えられるのはどれか。

- a. 麻痺性外斜視
- b. 恒常性外斜視
- c. 間欠性外斜視
- d. 術後外斜視
- e. 急性外斜視

問題46 視能訓練で誤っているのはどれか。

- a. ペナリゼーション
- b. 抑制除去訓練
- c. 屈折矯正
- d. 健眼遮閉
- e. 融像訓練

問題47 54歳の男性。右上斜筋麻痺で上下の複視がある。大型弱視鏡検査による9方向むき眼位を図に示す。

プリズム矯正の対象となる上下偏位はどれか。

- a. 2°
- b. 3°
- c. 4°
- d. 5°
- e. 6°

左固視 自覚的斜視覚

左上方視 -1° R/L 2°	上方視 -1°	右上方視 0°
左方視 +1° R/L 4° 外方回旋 1°	正面視 0° R/L 3° 外方回旋 1°	右方視 +1° R/L 2° 外方回旋 2°
左下方視 +2° R/L 6° 外方回旋 1°	下方視 +1° R/L 5° 外方回旋 2°	右下方視 +1° R/L 2° 外方回旋 3°

問題48 45歳の男性。1週前の頭部打撲直後からの複視を自覚して来院した。右外転神経麻痺を認める。

この時点の対応で適切でないのはどれか。

- a. 経過観察
- b. 片眼遮閉
- c. プリズム療法
- d. 右内直筋後転術
- e. 副腎皮質ステロイド薬内服

問題49 30歳の男性。2年前に内科で甲状腺機能亢進症と診断されている。正面と上下方向の眼位写真(別冊No. 5)を別に示す。

正しいのはどれか。

- a. 眼窩画像検査が必要である。
- b. 左眼上直筋短縮術の適応である。
- c. 右眼下直筋短縮術の適応である。
- d. 左眼基底下方プリズムで複視は矯正される。
- e. 右眼固視の方が、左眼固視より斜視角が大きい。

別冊

No. 5 写真

問題50 5か月の乳児。40Δの内斜視で斜視角に変動は少ない。交差固視がある。

診断に有用な眼球運動検査法はどれか。2つ選べ。

- a. パッチテスト
- b. 人形の眼現象
- c. プリズム順応テスト
- d. Parksの3step法
- e. Bielschowsky 頭部傾斜試験